

## 国際セミナー

KOTI (韓国交通研究院) との連携による  
国際セミナー

令和元年10月18日 運輸総合研究所 大会議室

講師———Kyeong-Pyo KANG 韓国交通研究院コネクティッド・自動運転研究センター長

モデレーター——石田東生 筑波大学名誉教授 一般財団法人日本みち研究所理事長  
日本大学理工学部交通システム工学科特任教授

## ■講演の概要

近年、AI、IoT等の進展により、自動車をはじめとする交通システムにおいては、コネクティッド化、自動運転化など産業構造を大きく変貌させる可能性がある。そのような状況を踏まえ、日本、米国、欧州等では、安全・安心で環境にやさしい新たなモビリティ社会の実現を目指して、技術開発や環境の整備等が進められている。韓国では、国の技術開発プロジェクト(CAPTAINプロジェクト)として、コネクティッド化・自動運転化された公共交通システムのイノベーション事業を実施している。

今般、運輸総合研究所と研究協定を締結している韓国交通研究院(KOTI: 韓国の交通政策の立案を支援するシンクタンクとして1986年に設立された国の研究機関)との間で10月16日~10月17日に開催した「第15回JTTRI-KOTIジョイントセミナー」の機会を活用し、KOTIの研究員から国の技術開発プロジェクトである「CAPTAINプロジェクト」の開発状況な

どの講演を受けるとともに、技術開発における課題、今後の両国との連携などについて議論する国際セミナーを開催した。

本セミナーでは、KOTIのKyeong-Pyo KANG コネクティッド・自動運転研究センター長から、CAPTAINプロジェクトの概要、交通インフラ及び交通管制センターとの接続による自動運転システムの開発状況、今後実施される自動運転をベースとする輸送システムの実証試験の内容や考え方などが紹介された。

また、本プロジェクトの技術開発にあたり、政府・自治体・民間との情報共有・連携の重要性、韓国の関係省庁間(交通担当政府機関や警察機関等)で統一的な自動運転の定義付けや今後の目指すべき方向性を定める必要があることなどが示された。

モデレーターである筑波大学の石田名誉教授(日本大学交通システム工学科特任教授・(一財)日本みち研究所理事長)より、単なる移動手段ではなく移動によりもたらされる新たな活動や付加価値を踏まえて開発を進める必要がある

こと、自動運転システム等の実用化にあたり社会的受容性や遅れがちなインフラを整備する必要があるとともに、日本と韓国における各技術開発プロジェクトの共有・連携によって技術開発の更なる発展・進化に繋がることなどのコメントがなされた。

参加者との討議では、公共交通であるバスのルートやバス停位置の設定、交通事故時の責任分担など様々な意見や質問があり活発な議論がなされた。当日は、大学等の研究機関、国土交通省、地方公共団体、鉄道事業者、その他交通事業者、コンサルタント、ゼネコンなどから約70名の参加者があり、有意義なセミナーであった。

※講演資料は、運輸総合研究所ホームページで公開しております。

(とりまとめ: 池田隆之)



講師: Kyeong-Pyo KANG



モデレーター: 石田東生

